

戦争する国づくり許さず 核兵器禁止条約に参加する日本に



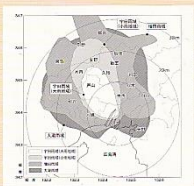
「核兵器全面廃絶国際デー」9月26日(月) 署名宣伝行動を長崎市浜町のハマクロス前で行いました。2013年9月26日に国連総会で

核軍縮に関するハイレベル会合が開かれたことを記念して、同12月に国連総会で制定されました。毎年この日に核兵器廃絶を求める世論を強める取り組みを行うよう国連は呼びかけています。グテーレス国連事務総長は声明で「これらの死の道具を廃絶することは実現可能であるだけでなく必要です。」「核兵器を廃絶することは、私たちが将来世代に残すことができる最大の贈り物といえます。」「核の脅威を永久に取り除き、平和という共通の目的を達成することについて新たな合意を築くことを決意しようではありませんか。」と呼びかけています。「日本政府に核兵器禁止条約に参加を求める署名」行動に13名が参加し73筆が寄せられました。ロシアによるウクライナ侵略が核兵器を威嚇に使いすめられていることもあり、若い人の戦争反対の声が聞かれました。

「黒い雨」地域とくらし

「黒い雨」訴訟

広島高裁判決に従った被爆者健康手帳の交付を



「広島地域とくらし」別冊特集 900円

政府は広島高裁判決を受け入れ、「判決」は確定

しましたが、国・厚労省は、「黒い雨」にあつて者で11種類の障害を伴う疾病にかかっているものに「手帳を交付する」としています。この扱いは確定判決に従っておらず、長崎原爆体験者も排除するものになっています。以上の内容を踏まえ、広島・長崎原爆の「放射性降下物」「放射線内部被爆」などの「原爆の実相」を伝え、被爆者・原爆被害者救済などと被爆者援護行政のあり方について、広く市民に知ってもらうために、このパンフレットはつくられました。



「世界大会の記録より」

エコノミストの浜矩子さん連帯の挨拶では、「原水爆禁止世界大会というものが存在していて本当に良かったというのが、いまの私の強いおもいです。」「ロシアのウクライナ侵攻とともに核兵器が利用されてしまう可能性が現実が帯びてきてしまっていることがあるからです。ですが、それだけではありません。このウクライナ情勢便乗して、日本においては軍議増強を敢行しようとして押し進めようという動きに出ているという、おぞましい状況があります。そのための財源確保には、またしても国債発行に依存するというようなたくらみも進行している」中で、世界大会の場からは核兵器の利用を許さないという力強い声が上がっていく、そして地球の津々うらうらに広がっていく、そういう状況がある、感謝したいし、心から心強いことだと思っていますと語られています。

またナガサキデー集会での連帯挨拶で元内閣審議官・経産省官僚の古賀茂明さんは「世界に誇る日本の平和主義「平和ブランド」について話された。ウクライナのゼレンスキー大統領が日本の国会での演説で他の国では行う武器提供の要請をしなかったのはなぜか、それについて「我々は憲法9条や日本の政治環境を認識している。」というウクライナ大使の話を紹介しています。日本の平和主義はそれくらい重みをもって世界に受け止められ尊重されていることを示したものだ。そのことを私たち日本人はもっと深く理解すべきだと話されています。

そして、戦後築き上げてきた平和主義を日本は静かに放棄していると世界が見ていることも。この世界大会で平和主義は不変だと世界に発信するために、核兵器禁止条約に参加する日本をつくる。私たちは心ひとつにして日本の平和主義を守り、核兵器廃絶に向けて一緒に粘り強く頑張っていくことを誓おうと呼びかけています。



なくそう！日米軍事同盟・米軍基地

2022年 **日本平和大会** オンライン

11/26(土) 開会集会・分科会

11/27(日) 閉会集会

みんなで参加・視聴しよう！

いまこそ、ゆるがめ平和を世界と日本に